

インターバンクの声（2015年6月23日）

先週18日のユーロ圏財務相会合でギリシャへの金融支援協議に進展がなかったために昨日夜、急遽臨時のユーロ圏財務相会合が開催され、メディアのヘッドラインには、「ギリシャの提案に一定の評価」「協議の進展期待」など前向きな評価が並んだ。ただし、具体的な議論の内容が詳しく解っているわけではなく、週内に行われる協議で最終合意に漕ぎ着けたいとのいつもの希望的観測の範疇とも言えそうだ。ユーロの動きにもそうした背景が如実に表れており、ニューヨーク市場昼前の1.14ドルまでの上昇も、その後は反落、終盤には1.13ドル前半まで売られている。週末にはドイツを筆頭に、もはやギリシャのデフォルトは避けられないとの見方が圧倒的に多くなっていたが、週が明けて見れば再びギリシャの債務交渉進展への期待が広がった。ギリシャが提出した財政再建案が本当に評価されて最終合意に結びつくのか怪しい部分もあるが、それまで売買が交錯する日々が続きそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。